

# もし自然災害で被災したら

昨年12月に発行した「まごひち瓦版 第4号」は、『今世紀最強』というキャッチコピーが多用された超大型台風21号による大阪府を中心とする被害を取り上げました。超大型台風なんてそう多発するものではないという国民の願いはあつさりとうと裏切られ、今年10月に静岡から上陸し福島県で太平洋に抜けていった台風19号は多くの市区町村で河川を氾濫させ甚大な浸水被害を起こしました。9月に大規模な停電と家屋への被害をもたらした台風15号の被災規模をはるかに上回る人的・物的被害が報道されています。今年、近畿地方での被害は目立ちませんが、奈良県南部は常に河川の氾濫と山崩れの危険が背中合わせです。また、国土交通省が管理するハザードマップによると一級河川の和川流域では一般住宅が広がる区域に浸水想定エリアがあります。

**まごひち瓦版**  
ライフスタイルに関する情報をもっと知りたい  
貴方にお届けする地元企業発行のかわら版です

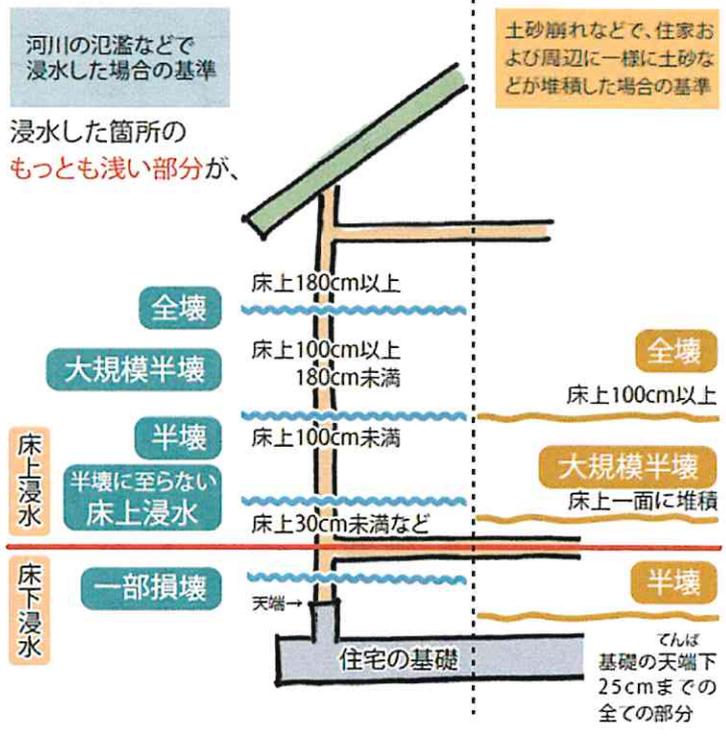
人災／自然を問わず災害は予期せぬ時に襲い掛かります。平素から避難場所の確認。被害を最小限に留められるような防災準備。家族構成や健康状態に応じた早期避難。避難場所以外で身を寄せられる親戚や知人との関係作りなども大切だと感じます。

### 水害にあった時

- ①被害状況を写真に撮る。被害の様子がよくわかるように4方向から、浸水の深さがわかるように撮る。室内の被害状況もわかるように撮る。
- ②罹災証明書の発行を受ける。
- ③施工会社・大家・保険会社に連絡する。
- ④濡れてしまった家具・家電を片付ける。冠水した家電製品はショートや漏電、発火の危険があるので通電しない。
- ⑤床下の掃除・泥の除去・乾燥・消毒。

### お役立ち雑学

- ★ どの火災保険に入っているか分からなくなった場合の問い合わせ先  
自然災害損保契約照会センター  
☎ 0120-501331(無料)
- ★ ハザードマップポータルサイト  
～身のまわりの災害リスクを調べる～  
<https://disaportal.gsi.go.jp/index.html>
- ★ 国土交通省 川の防災マップ  
<http://www.river.go.jp/kawabou/hpguide/pc/index.html#>
- ★ 大規模災害時用の公衆無線LAN  
00000JAPAN (ファイブゼロ ジャパン)  
災害発生から72時間以内利用可能
- ★ 災害時伝言ダイヤル「局番なしの171」  
伝言を録音でき、あなたの番号を知っている人が確認できる



- ① 早期避難のメリット  
精神的安定  
周辺状況が整っている安全な間に移動が出来る。防災情報から目が離せない不安が軽減される。
  - ② 避難所の比較的良好な場所が確保できる。
  - ③ 非常持ち出し袋以外に必要なものが分かる。配布されない必需品が分かるので実際に避難が必要となるまでに準備が可能。
- 停電時の注意**  
通電再開時に濡れた家電がショートしたり火災になるのを防ぐため、家電製品特に精密家電、暖房器具や発熱する家電はプラグを抜いておく。
- 車による避難を避ける**  
車での避難中とみられる水害被害の割合が非常に多いです。水深30センチで車はエンジンが止まり動かなくなるとされています。冠水した道路・水路・排水路は大変危険です。水深が深くなると水圧でドアは開かなくなり、エンジンが止った車窓は開閉不能となることを覚えておきましょう。
- 災害時に欲しかったもの一般的に準備品に加え、モバイルバッテリー、水、ウエットティッシュ、ランタン、多機能ラジオ、保存食、延長コード、電源タップなどが被災者アンケート等で多くみられました。